

西浦海岸で「海辺の植物」探し！

“ハマカンゾウの花が見たい”



沖島（もと「猿が島」）？



オープニング

土曜日の朝だからか「西浦園地」の駐車場は、温泉ホテルの宿泊客の車で余裕なし。急ぎよ、展望台下の駐車場へ集合場所変更。ここから海岸観察に出発です。

1 ハクセキレイ(白鶺鴒) 幼鳥

●道案内は「ハクセキレイ」が名乗りを上げました。



海岸性植物

海岸の砂地や岩壁に生活する植物。一般に葉は厚く、クチクラ（角皮。動植物の体表をおおう細胞が外表面に分泌したかたい膜状構造）が発達し、耐乾性、耐塩性の強いものが多い。

海浜は、海からの風と飛砂、飛沫塩分、貧栄養など、過酷な環境条件下にある。これに耐えることができる植物が、海浜に生育する。この環境条件は内陸に向かって緩和されていくので、それに対応した植生の帯状構造が見られる。



海岸性植物

1 ツワブキ(石落)

後背地に生息する草本



- ◆キク科ツワブキ属。
- ◆海岸付近に多い多年草。フキに比べて葉の表面に光沢があり、丈夫で厚い。葉柄を食用にする。



海岸性植物

2 イヌビワ(犬枇杷)

後背地に生息する樹木



- ◆クワ科イチジク属。
- ◆暖地の常緑樹林下に普通な落葉低木。雌雄異株。10mm前後の小さなイチジク型の花囊（かのう）をつける。イチジクコバチによって花粉が媒介される。
- ◆この木があれば暖かいところとっていい。

3 マサキ(柎)

後背地に生息する樹木



- ◆ニシキギ科ニシキギ属。(花期 6~7月)
- ◆常緑低木。海岸近くの林内や林縁、暖地に多い。高さ2~6mになる。
- ◆葉は厚く革質で、強いつやがある。葉先は鋭頭で、基部は円形からくさび形、縁には低い鋸歯がある。

参考写真 花



イヌビワ・マサキは庭木としてもよく見かける。海岸性植物は、厳しい環境に適応しているいて、育てやすいので好まれるものと思われる。日当たりのよいところに植えられる。

クサギ(臭木)



- ◆落葉小高木 (シソ科クサギ属)
- ◆枝や葉に強い悪臭があるのが名の由来。
- ◆花にはジャスミンに似た芳香がある。
- ◆雄性先熟=雄しべ先熟によって近親結婚を避ける。

参考写真



↑ 雄性期 (ふれあいの里)

開花するとまず雄しべ(4個)を伸ばして花粉を飛ばすが、この時雌しべは下を向いたままで、同じ花からの花粉を受け拒んでいる(雄性期)。これにつづく雌性期には雄しべは萎れてしまい雌しべがピンと伸びて他の花からの花粉を待つ。 *大写真は雌性期

アオツツラフジ(青葛藤)



- ◆ツツラフジ科アオツツラフジ属。落葉つる性木本。
- ◆やぶに絡まって成長するつる性の多年草。雌雄異株。
- ◆人里・田畑、山地・低山、森林・林縁、原野・草原に生える。

ガマツミ(莢蒾)



- ◆レンプクソウ科ガマズミ属。
- ◆山地や丘陵地の日当たりのよい林に普通に生える落葉低木。
- ◆樹高2-3m程度になる。

松山

イヌビワの実





海岸性植物

4 カクレミノ(隠蓑) 後背地に生息する樹木



- ◆ウコギ科カクレミノ属。
- ◆暖地の林内に生える常緑亜高木(常緑小高木~高木)。若木の葉は3裂して菱形を成すが、老成するとくびれがなくなり丸くなる。花は夏に咲き、両性花と雄花が混じって咲く。冬に黒熟する。

雄花=五弁花 雄しべ5本 退化した雌しべ?1個

ミツバアケビ(三葉通草)



- ◆アケビ科アケビ属。落葉性つる性木本。
- ◆北海道~九州の山野にふつうに生える。
- ◆小葉が3枚(アケビは小葉が5枚)。
- ◆アケビの仲間は、果実が熟すと割れて中の白い果肉が見えるようになる。その姿を「開け実」とよんでいたことが、名前の由来。

スズメバチ(雀蜂)の巣



- ◆スズメバチ=ハチ目スズメバチ科に属する昆虫のうち、スズメバチ亜科に属するものの総称。
- ◆巣の材料は枯れ木からかじり取った木の繊維を唾液のタンパク質などで固めたもので、一種の紙のようなもの。

参考





海岸性
植物

5 シャリンバイ(車輪梅)

後背地に生息する樹木



- ◆バラ科シャリンバイ属。海岸に生える常緑低木。
- ◆葉はぶ厚く、縁はわずかに反りかえることが多い。
- ◆花は、5月、枝先に円錐状の花序をつける。
- ◆名前の由来；枝の分岐する様子が（葉の配列の様子とも）車輪のスポークのようで花が梅に似ることから。



海岸性
植物

6 トベラ(扉)

後背地に生息する樹木



- ◆トベラ科トベラ属の常緑低木。海岸に多い。
- ◆春から初夏にかけて、枝先に多数の白花をつける。秋に熟した果実は3片に裂け、中から赤い種子がのぞく。

*四角画像の花と実は、両方とも参考写真



海岸性
植物

7 コマツナギ(駒繫)

後背地に生息する樹木



- ◆マメ科コマツナギ属。落葉小低木。
- ◆海岸～低山の、日当たりのよい草地などに生育する草本状の低木。
- ◆茎はときに這い、斜上し、または立ち上がり、高さ90cmとなる。
- ◆和名は「駒繫ぎ」という意味で、茎が丈夫で、馬をつなぎとめることができることから名付けられた。

ヘクソカズラ(屁糞葛) 別名;サオトメカズラ



- ◆アカネ科ヘクソカズラ属の性多年草。
- ◆悪臭があることから屁屎葛の名がある。古名は糞葛。

「かはらぶぢに
延(は)ひおほとれる
屎葛(くそかづら)
絶ゆることなく
宮仕へせむ」
万葉集 高宮王

葉をもむと屁の様に嫌な臭いする
栗本正子さんの「かるた」

ムクノキ(椋木)



- ◆アサ科ムクノキ属の落葉高木。
- ◆エノキに似るためムクエノキ(椋榎)とも言う。
- ◆葉の質は薄く、表面は細かい剛毛が生え、紙やすりのようにざらつく。

→ 中央の島は松島



エノキ(榎)

西浦マリーナ



シャリンバイ

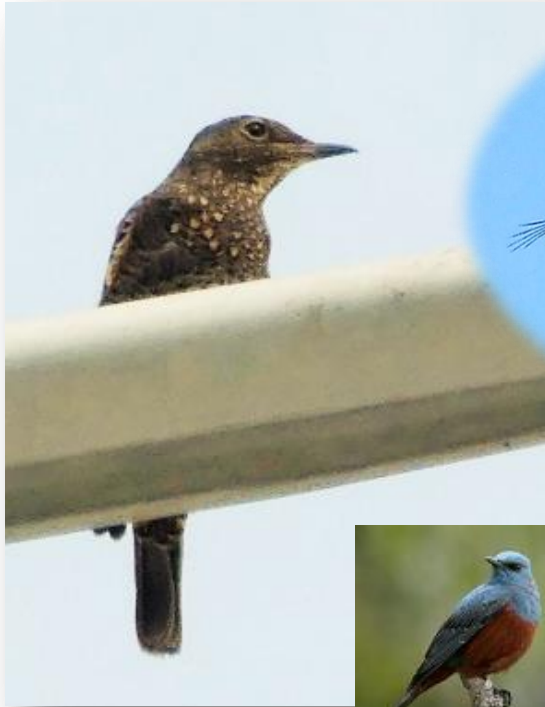
トベラ

- ◆ニレ科エノキ属の落葉高木。
- ◆丘陵から山地の日当たりの良い適度に湿り気のあるところや沿海地に生える。高さ20m、直径1mほどになる。
- ◆江戸時代には街道の一里塚として植えられた。野生の木も各地にたくさん見られ、地名や苗字（榎本など）となっている例も多い。



高い崖の上まで… ツタでしょうか？

2 イソヒヨドリ(磯鶇) ♀



3 トビ(鷹)



4 チュウサギ(中鷺)?



5 ハシボソガラス(嘴細鳥)



- ↳
- ◆ツグミ科イソヒヨドリ属。
 - ◆ヒヨドリ=ヒヨドリ科だが、イソヒヨドリはツグミ科なのでまったく別の鳥。
 - ◆留鳥。磯や岩場に多く生息。世界的には、標高2,000-4,000mの高山の岩石地帯に生息する鳥。



♂ 参考写真



⇐「松島地蔵」の案内
松島は、西浦半島の先端近く沖合約200mにある小さな島。強い海風にさらされて横長に広がる独特の形のクロマツは、松島のクロマツとして蒲郡の名木50選に指定されており、その古木の陰に1.5m程の松島地蔵がある。

*これから「松島突堤」を渡って、松島の観察に行きます。

数奇な運命の地蔵様 「松島地蔵」

ここから延びる堤防の先の小さな島・松島の中心にクロマツの古木が立っています。海原を彩るその見事な緑の下に高さ1.5メートルほどのお地蔵様が一体。「松島地蔵」と呼ばれ、海の守り本尊として地元の船乗りたちに親しまれていました。

嘉永年間(1848~1853)に地元漁師たちが建てたとされていますが、現在ある石像は2代目。

初代のお地蔵さんは、安政元年(1854)の大地震による津波で、周りの松の木とともに海に流されてしまったのでありし日の姿形に似せてつくられたといわれています。つくり直した後、海の中でばらばらになった手や脚や頭が地引き網などに次々とかかって引き上げられましたが、左手だけは見つかりませんでした。

「奇蹟の生還」を遂げた本物(初代)の石像は現在、西浦町

● 『松島』のいきものを観察します。まず、突堤のつけ根で探索を！



海岸性
植物

8 ツルナ(萵菜)
砂浜に生息する植物



- ◆ハマミズナ科（ツルナ科ともいう）ツルナ属の多年草。海岸の砂地に生える。別名ハマチシャ（浜萵苣）。太平洋沿岸（アジア、オセアニア、南米）の熱帯から温帯の海岸に広く分布。英語では「ニュージーランドのハウレンソウ」と呼ぶ。
- ◆葉は分厚く、表面がざらつく。夏季、葉柄のつけ根（葉腋）に、花弁のない小さな花をつける。食用に栽培されることもある。（沖縄県では「ハマハウレンソウ」や「ハマナ」の名で親しまれる。）
- ◆最近食用として売られている「アイスプラント」は、よく似ているが、ハマミズナ科メセンブリアンテマ属で、南アフリカ原産。砂漠や荒野、海岸の砂地などの厳しい環境で生育する。



海岸性
植物

9 ハマカンゾウ(浜萱草)
後背地に生息する草本



- ◆ツルボラン科ワスレグサ属。常緑性の多年草。ノカンゾウ、ヤブカンゾウの仲間で、名前のように海岸性の植物。海岸の崖地・急傾斜地などに生育する。葉が細いのが他のカンゾウの仲間との違い。
- ◆花期＝8～10月、草丈＝70～90cm、分布＝関東地方以西（在来種）。



⇐
マルバツユクサ
花が小さい

⇒
ツユクサ



⇐
ママコ/シメグイ

⇒
花弁に見えるのは萼片で深く5裂





海岸性
植物

10 コマツヨイグサ(小待宵草)

砂浜に生息する植物



● いざ、これから『松島』に上陸!!!



- ◆アカバナ科マツヨイグサ属の越年草または多年草。
- ◆砂浜に多いが、道端にも普通に見られる。北アメリカ原産の帰化植物。花期は初夏。



海岸性
植物

11 ハマヒルガオ(浜昼顔)

砂浜に生息する植物



- ◆ヒルガオ科ヒルガオ属。
- ◆砂地に生える、つる性の多年草。初夏にらっぱ状の花を開く。

参考写真



海岸性
植物

12 ハマウド(浜独活)

砂浜に生息する植物

枯れ



- ◆セリ科シシウド属。
- ◆海岸の岩上、または砂地に生える多年草。(発芽から枯死するまでの期間が多年にわたる)



海岸性
植物

13 ハマゴウ(浜栲)

砂浜に生息する植物



- ◆シソ科ハマゴウ属。
- ◆砂浜に生える常緑小低木。
- ◆幹は砂中を横に這い。枝には4稜がある。夏に青紫色の花をつける。おしべ、めしべともに、先端は筒状の花のそとに突きだす。
- ◆葉っぱを燃やして香煙を仏にささげた「浜香」が語源になっているらしい。





海岸性植物

14 ハマナデシコ(浜撫子)

砂浜に生息する植物



- ◆ ナデシコ科ナデシコ属の多年草。
- ◆ 本州～九州の海岸の崖、砂地に生える。
- ◆ カワラナデシコに比べて、葉は広く丸みを帯び、表面に光沢がある。夏に、多数の花が集まった花序を茎の先端につける。

海岸 10 コマツヨイグサ



海岸 5 シャリンバイ



海岸性植物

15 ハマボックス(浜)

砂浜に生息する植物



- ◆ サクラソウ科オカトラノオ属の越年草。
- ◆ 日本全土の海岸に生える。
- ◆ 初夏に花をつける。
- ◆ 葉は厚く、表面に光沢がある。



松山さん撮影

海岸 13 ハマゴウ(浜栲)



ノブドウ(野葡萄)



- ◆ ブドウ科ノブドウ属に属するつる性落葉低木。
- ◆ 果実は、熟すと光沢のある青色や紫色などに色づくが、味が悪く食べられない。
- ◆ 葉や茎を漢方の生薬名で蛇葡萄(じゃほうとう)、根を蛇葡萄根(じゃほうとうこん)と呼び、関節痛等に薬効がある。



参考写真

松島の海の生物

🦀 バフンウニ(馬糞海胆)??の骨格



参考写真

ウニ(骨格)のイロイロ



- ◆オオバフンウニ科バフンウニ属。
- ◆日本、朝鮮半島、中国沿岸の潮間帯から水深20 m程度の浅海に生息する。日本では古来食材として知られる。

棘皮動物(きょくひどうぶつ) = 棘皮動物門に属する生物の総称。身近な棘皮動物はウニ、ヒトデ、ナマコがほとんどを占める。

🦀 フジツボ(藤壺)



- ◆磯や船にびっしりくっついて甲殻類の生物。フジツボ科とイワフジツボ科の生き物の総称である。
- ◆フジツボは石灰質の殻を持ち、動かないことから貝の仲間と思われることがあるがれっきとした甲殻類、つまりエビやカニの親戚である。

🦀 イシダタミ(石畳)



- ◆ニシキウズガイ科イシダタミ属。
- ◆殻高2cm前後になる。全体に丸みが強く殻表にイシダタミ状畝が走る。
- ◆塩ゆでなどで食用にすることがある。ただし小さいこともあり食用にするのは一般的ではない。

🦀 タマキビガイ(玉黍貝)



- ◆タマキビガイ科タマキビ属。
- ◆潮間帯上部の岩の上やくぼみに群がって生息する。
- ◆殻高は約17mm、殻径は約14mmになる。
- ◆バケツなどでタマキビガイを海水に浸けておくと自然と水から上がるという貝の仲間としては珍しい性質を持っている。

カキ(牡蛎)



- ◆ウグイスガイ目イタボガキ科とベッコウガキ科に属する二枚貝の総称。
- ◆海の岩から「かきおとす」ことから「カキ」という名がついたといわれる。

イボニシ(疣辛螺)



- ◆アッキガイ科に分類される肉食性の巻貝の一種。
- ◆日本全国の潮間帯(海辺の岩場)などに、普通に見られる小型の巻き貝。肉食性の貝で養殖のカキなどを襲う有害種の貝として有名。
- ◆年間を通して食べられている。辛味を感じる。

ウメボシイソギンチャク(梅干磯巾着)



- ◆日本近海に生息するイソギンチャクの種類。
- ◆潮間帯の上部に生息し、主に岩の影になった平らな部分に、集団でくっついている。潮が引いているときには、触手をすぼめ、その名の通りウメボシのようにまるまっている。

小さいカニサン(蟹さん)



*磯場のカニって食べれるか?
大半の種類は食べられるが、死亡例もある食中毒事故を起こす蟹もあるので注意!



松島はこれで終了です。👋

➡「松島遊歩道」に入りました。

海岸 9 🌺ハマカンゾウ(浜萱草)



🐦 6 ウミネコ(海猫)



- ◆カモメ科カモメ属。全長44-48cm。留鳥。
- ◆嘴の色彩は黄色で、先端が赤くその内側に黒い斑紋が入る。(尾の先の黒い帯や黄色いくちばしの先の赤と黒の模様などが「カモメ」と異なる部分)
- ◆餌の魚を追って移動するため、漁師には「漁場を教えてくれる鳥」として大切にされてきた。

🐦 7 カワウ(河鵜)



- ◆ウ科ウ属。全長80-101cm。留鳥。
- ◆河川のみならず、河口付近や湖沼、浅海域でも普通に見ることができる。

※鵜飼にはなぜウミウを使うのか？

- ①ウミウの方が身体が大きくて深く潜れるから。
- ②カワウは団体行動をするので鵜飼のような個人行動を主とする狩りには不利。
- ③ウミウは捕った魚を浮上してから呑み込もうとするので鵜匠にわかりやすい。

カワウ

ウミウ



目の下の黄色い部分が三角に尖っている

目の下の黄色い部分が四角



海岸性
植物

16 ニワウルシ(庭漆) 別名 シンジュ(神樹)

後背地に生息する樹木



- ◆ニガキ科ニワウルシ属の落葉高木。
- ◆原産は中国北中部。日本には明治初期に渡来。樹高は10~20m。時には30mほどになる。
- ◆別名の「シンジュ(神樹)」は英語名「tree of heaven」の訳(=天国の木)であり、天に届くほど早く、大きく育つ意からきている。
- ◆「ウルシ」がついているが、ウルシ(ウルシ科)とは全くの別種。ウルシのようにかぶれる心配はない。



海岸性
植物

17 マルバグミ(丸葉茱萸)

後背地に生息する樹木



- ◆グミ科グミ属。ややつる性の常緑低木。(枝が蔓状)
- ◆暖地の海岸近くで見られるグミの仲間。つる状の枝を四方に伸ばし、かたまりのような姿になる。
- ◆花は秋に咲き、果実は晩春に熟す。
- ◆別名；オオバグミ。



参考写真



海岸性
植物

18 クロマツ(黒松)

後背地に生息する樹木



- ◆マツ科マツ属の常緑高木。
- ◆本州から九州までの海辺を中心に自生する。当たりのよい海岸の砂浜や岩上などに生える。砂浜に続く海岸に多い。
- ◆生命力が強いため古くから縁起の良い木として和風庭園の主役として使われる。



海岸性
植物

19 エビスル(海老蔓)

後背地に生息する草本



- ◆ブドウ科ブドウ属でつる性の落葉木本。
- ◆本州~北海道の山地、丘陵、海辺まで自生する。
- ◆葉の裏面は淡褐色または白色のクモ毛に覆われ、秋まで残る。(表面は消える)
- ◆秋に、黒く熟した果実を採取、水洗いしてから生食する、甘酸っぱい味がする。

〈エビズルの葉の裏面〉



〈エビズルの実の試食〉



〈花〉

松山さん撮影



- ノブドウの葉には、白色のクモ毛はない。
- エビズル、ヤマブドウは、①ブドウ属、②実が房状で食べられる。
- ノブドウは、①ノブドウ属、②実は房状にならず果肉も少ないので食べられない。



海岸性植物

20 オオシマザクラ(大島桜)

後背地に生息する樹木



- ◆バラ科サクラ属の落葉高木。
- ◆大島を含む伊豆七島、伊豆半島及び房総半島を原産とするサクラ。
- ◆春、鮮緑色の葉が出ると同時に、純白、または淡紅色の花を咲かせる。
- ◆ソメイヨシノは、オオシマザクラとエドヒガンから育種された園芸種。(カワツザクラは、オオシマザクラとカンヒザクラの自然交雑種であると言われる…推定)

マクワ(真桑)



- ◆クワ科クワ属の落葉高木。
- ◆中国原産で、養蚕用の桑葉をとるために植えられた。各地の人里で野生化している。
- ・ヤマクワは、花柱(かちゅう)が長く、果実にも、長い花柱が残る。
- ・雄花序は、マクワの方が長い。
- ・葉のみでの区別は難しいがヤマクワの葉の先端の方が、尾状に長くとがる傾向がある。



海岸性植物

21 カラスザンショウ(烏山椒)

後背地に生息する樹木



- ◆ミカン科サンショウ属の落葉高木。
- ◆本州~九州の河原や崩壊地、伐採跡などに生える。裸地ができると、真っ先に侵入して先駆植生をつくる。
- ◆幹や枝の周囲に長さ1cm前後の鋭いトゲが多くつく。このトゲは、成木ではイボ状になる。



マクワの観察



海岸性
植物

22 ハマツメクサ(浜爪草)

砂浜に生息する植物



- ◆ ナデシコ科ツメクサ属の1～多年草。
- ◆ 日本全土の海岸の岩礫地や砂地に多い。内陸部の日当たりのよいところに生えることもある。
- ◆ ツメクサより茎が太く、葉も幅が広くて厚い。
- ◆ 種子に突起がないのがツメクサと識別するポイント。



海岸性
植物

23 ヒトモトススキ(一本薄)

後背地に生息する草本



- ◆ カヤツリグサ科ヒトモトススキ属の多年草。
- ◆ 非常に大きくなる草本で、海岸近くの水辺にはえる。
- ◆ 葉の高さは2m近くに達することもある。地下茎があって群生する。葉は厚く、縁に鋸状の歯があり、皮膚などは簡単に切れてしまう。



12:05 クロージング

【課外観察】

コシアカツバメ (腰赤燕)



三河湾の夕日

松山さん撮影



* 幡豆にて (同日)

- ◆ ツバメ科ツバメ属。全長17-20cm。夏鳥。
- ◆ ツバメより少し大きめ。腰は四角形にレンガ色。尾はツバメより太めで長め。喉から腹に、黒い細い縦縞。
- ◆ 巣=ツバメの椀型と違い、徳利形(半分)。

ご苦労様でした。